

2025 年度

事業計画書

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

公益財団法人科学技術広報財団

I 科学技術広報に関する刊行物等の編集及び頒布、科学技術に関する広報啓発並びに人材の育成を実施する事業（公益目的事業1）

1. 科学ポスターの企画・制作及び頒布

（1）一家に一枚シリーズ

文部科学省が毎年作成する科学ポスター「一家に一枚」を複製し有償で頒布する。頒布にあたっては、インターネットを通じての頒布により一層注力する。一方、科学館、大学生協、書店、教材会社等を通じての頒布については、そのチャンネルの維持に努める。また、元素周期表に関しては、中学校、高等学校での活用を促進するべく、重点的に広報活動を行う。

（2）財団オリジナル

過去に頒布し好評だったものの国際単位系が変更されたため頒布終了となった『単位』（大日本図書とのコラボ企画）の改訂版を制作する。

2. 書籍、専門誌の頒布

『科学プロデューサ入門講座』（国立天文台科学文化形成ユニット編）、『サイエンスコミュニケーション』（一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会発行・年2回）をインターネットを通じて有償頒布する。

3. 科学技術関連団体の広報支援事業

（1）国立研究開発法人理化学研究所の広報支援業務

「ニホニウム」「富岳」等の認知度向上を目的として、理化学研究所により制作された各種広報物をインターネット経由で有償頒布する。

（2）国立天文台の広報支援業務

国立天文台のスタッフを中心に結成された天文学普及プロジェクト（通称：天プラ）のメンバーらと協力しながら、国立天文台が企画（制作は天プラ、著作権は財団）した「宇宙図」「太陽系図」「光図」の普及活動を推進する。また、近々リニューアル予定の「国立天文台望遠鏡キット」についても普及活動を支援する。

（3）科学技術団体連合の広報支援業務

①国立研究開発法人、公益社団、公益財団、一般社団、一般財団により構成された科学技術団体連合の各種事業の広報支援を行う。具体的には、団体連合が主催するサイエンスフォトコンテスト（文部科学省との共催）、有識者による講演・研修会、科学技術関係者による交流会・新年賀詞交換会等の広報を通して、関係者のネットワーク構築を支援する。加えて、加盟団体施設の見学会や科学技術関連イベントでの事業紹介等を通じて、団体連合の新規会員獲得を促進するためのPR活動を行う。また、団体連合のホームページを管理運営し、現代社会にフィットするよう改良を行いつつ、情報更新を行う。

3. 科学館の運営（指定管理者制度による管理代行）

（1）新潟県立自然科学館の運営（株式会社コングレ、一般社団法人CSV 開発機構とのジョイントベンチャー）

①全体運営

共同事業体の代表団体として、新潟県との窓口となって各種折衝を行う。2024年度は共同事業体間の業務分担の変更により、当財団が経理業務を担当することとなったが、2025年度以降も引き続き当財団が館の経理を担当する。

②サイエンスコミュニケーション活動

常設展示においては、情報更新などにより新鮮さや魅力の向上を図りながら運用を行う。特別展はより多くの方が科学に興味を持つようなテーマで開催する。春は人気ミニチュアアーティスト「Mozu」のミニチュア展、夏は変わった特徴を持った生き物を集めた展示を行う。また、利用者の自然科学に対する理解増進や興味喚起を誘発するために、サイエンスコミュニケーションを主体とした活動を推進するとともに、人材の育成に努める。

(2) ふなばし三番瀬環境学習館の運営(公益財団法人船橋市公園協会とのジョイントベンチャー)

①サイエンスコミュニケーション活動

三番瀬の自然環境への理解を深める拠点としての役割を果たすため、環境学習プログラムとワークショップの企画・実施などを通して利用者の増加に努め、学校教育での利用を拡大する。また、三番瀬干潟および海浜の環境をテーマとしたオリジナル特別展、企画展を年4回企画・制作・開催すると共に、成果物の市内公共施設における利活用を図る。

②アウトリーチ活動

市民センター、商業施設などの集客施設でのイベントの企画・実施を通じて、市民への周知を図り、利用者の拡大に努める。また、市主催の「ふなばしエコカレッジ」事業において、市内各所での自然探訪会に講師として協力する。より深く三番瀬について学びたい小中高生利用者の科学クラブ「三番瀬ラボメンバーズ」を運営し、館の固定ファンを増やすと同時に、様々な活動におけるリーダー、メンターとなり得る人材を養成する。

4. 科学館成果物の利活用事業

(1) 展示物等の貸出

これまで財団が実施した企画展・特別展の中で評判の良かった「紙飛行機展」「さいきょう妖怪サバイバル」「浅い海と深い海」を積極的にプロモートし、全国の科学館に貸与する。なお、「浅い海と深い海」については、佐久市子ども未来館(7/20～9/7)とこども科学センター・ハチラボ(9/10～11/3)での開催が決定している。

(2) プラネタリウム番組の提供

財団が保有するプラネタリウム映像『くじらが星に還る海』『アイスワンダーランド』のプロモートを推進する。

5. 助成を得て実施する事業

(1) 公益財団法人東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発助成事業

茨城県立つくばサイエンス高等学校・科学技術科の学生に対し、大学教授による講話、大学レベルの実習指導を提供する。

(2) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金

小・中学生を対象に、科学技術を身近に感じてもらうことを目的としたサイエンスキャラバンを企画・実施する。

II 科学技術普及・利用に係る広報及び施設・展示の企画・立案を実施する事業（収益事業1）

1. 科学技術関連商品の販売

（1）STEM 教育商品

既存商品の紙飛行機商品「ホワイトウイングス」「おえかきプレーン」「飛燕」等を積極的に拡販する。

（2）産学連携商品

既存商品の「ダチョウ抗体マスク」「Z 型パンチャーショベル」のほか、「組織透明化実験キット」等の新商品の開発を促進する。

2. 牧友会(旧科学技術庁のOB 会)事務局業務

文部科学省の人事異動情報、叙勲受章者(科学技術関係)情報、訃報等を会員にとって有益な情報を伝達するほか、会員名簿の作成や懇親会・新年賀詞交歓会等の企画・運営を行う。

III 管理業務

1. 賛助会員管理

科学技術関連の公益法人を中心に、新規会員の増加に努める。勧誘に際して、入会のハードルを下げるため、賛助会規程を一部見直す。

2. 広報活動

科学技術広報財団及び諸事業への関心を高め、問い合わせの増加および事業の拡大を目指して、ホームページを刷新する。

以上